平成2９年度第１回大阪府障がい者自立支援協議会地域支援推進部会

精神障がい者地域移行推進ワーキンググループ議事概要

日　時：平成2９年10月19日（木）午後２時～

場　所：大阪赤十字会館4階402号室

出席委員：島田委員､高田委員､辻井委員（精神ＷＧ長）､堤委員､林委員､山本（勝）委員､山本（深）委員､山本（幸）委員〔五十音順〕

【議題１】ワーキンググループの位置づけについて

○ 事務局より資料１、２に沿って説明

【議題２】長期入院精神障がい者退院促進事業について

【議題３】精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る連携支援体制

について

○ 事務局より資料３～５に沿って説明

♢委員意見等

* + 地域で精神障がい者に関わる関係者が集まることには意味があるが、それ以上に、地域全体の医療と介護、保健福祉等地域の課題を考える地域包括ケアシステムの中の重要な構成員として、精神障がいのことを知っている方々が必ず入るようなシステムを検討していく必要がある。
  + どこへ、どういう形で退院されているのか、退院先についての調査は必要。
  + 市町村に専門職（精神保健福祉士）がいないことは大きな課題である。
  + 退院後の地域における医療の担い手として診療所や訪問看護ステーションが増加している。地域の民間の資源と行政とで、いかに横のつながりをつけ利用者のニーズを満たしていくかを考えていけば、市町村レベルでできることはまだまだある。
  + 幅広い社会資源を利用したネットワークの中で、その方をどう支援していくかを話し合うためには、核となるところが必要である。核がなければ連携やネットワークを作るのは難しい。
  + 高齢者の包括支援センターも最初は何をするのかわからなかったが、年々機能

が充実し役割が明確化してきている。それを一つのモデルとして市町村に提言

していくことが大事。

* + 市町村によってかなり精神障がい者の地域移行に対して、考え方に格差があるように見受けられる。精神科病院があるかないかで違う。
  + 地域での支援も、精神障がいの枠のみでは支えきれなくて、今後は介護保険等高齢者分野と連携して考えることが欠かせない。
  + 病院から押し出す力と、それを受けていく力は車の両輪、同時進行で考える必要がある。かなりたくさんのことを議論し、実現化するためにどうしたらいいかを考える必要があるが、その視点が重要。

　【その他】

　　　　○事務局より説明。

次期ワーキングについては、本日いただいたご意見を踏まえ事務局で整理をさせていただく。年明け1月ごろに開催予定。後日日程調整させていただく。